

わたしたちの身近に常にあるお酒が、実は「薬物」であることをご存知でしょうか？何気なく手に取ったお酒は私たちをリラックスさせ、人間関係をスムーズにさせるものでもあります。しかし、そのマイナスの影響を知らぬままに日常的に使用を続け、睡眠薬代わりに、または憂さ晴らしに、使用を続けますといつしか大切な「脳」の機能を低下させ病気へと進行していくこととなります。

大切なことはそのプロセスを知り、実態を理解して病気へと進行するのを予防することです。今回は全4回シリーズの最終回です。

## 第4回 テーマ

第3回は『一般の方に知って頂きたいこと』をお送りしましたが、今回は『アルコール治療に関するQ&A』をお送りします。

当院では、アルコール治療や受診についてのご相談が、日々寄せられています。中でも一番多く頂くご質問を以下にまとめました。



### Q1. 受診して貰いたいけれど、本人にどのように接し話をしたらよいのでしょうか？

A1. 本人に受診の意思がない場合、ご家族から受診を説得するのは、とても難しいと思います。『アルコール依存症』とは、長年の飲酒習慣によって起こる<<脳の機能不全>>であり、お酒をやめようという意思があっても、自分で飲酒を止めることができない病気です。

ご本人に、「本当はお酒を止めたいと思っているんじゃないの？」と聞いてみてください。

- ◎話をするタイミングとしては、「お酒が抜けている時」に。
- ◎非難するのではなく、「心配している」という姿勢で。
- ◎見捨てるのではなく、「一緒に相談しに行こう」という態度で。

つつい、  
キツイ口調に  
なっちゃう  
のよねえ…



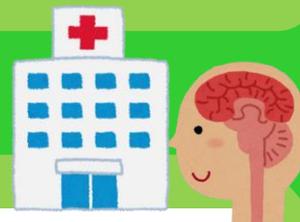
### Q2. 家族の希望で入院させて貰えないのでしょうか？

A2. ご家族が本人の意思に反して無理矢理入院させることはできません。無理矢理すると、家族間の信頼関係が壊れるだけでなく、今後治療に結びつく可能性まで失いかねません。治療を始めるからには、本人がある程度の意識・自覚を持つことが一番大切であり、それが治療のスタートとなるからです。

### Q3. 本人に受診の意思がないとだめですか？

A3. はい。本人に治療の意思がないと受診はできません。治療契約は、あくまで本人と病院（医師）が結ぶものだからです。本人の「何とかしたい。」と思う気持ちが治療への第一歩です。

### Q4. なぜアルコールの治療は精神科で行うのですか？



A4. アルコールは強い薬物であり、長年使用していると、身体の変化だけでなく、脳（＝心）へ直接ダメージを与え、機能障害を引き起こします。脳の機能障害が起こると、認知機能が低下し、欲求の制御ができなくなり、自分勝手な行動を繰り返します。例えば、欲望に任せ、ただらと酒を飲み続けた挙げ句、暴言を吐く、物を壊す、所構わず排泄する等、色々な問題行動を起こし、周囲に迷惑をかけるようになり、次第に人間性が失われていき廃人同様の生活を送ることになります。このようになってから治療を行うのでは、手遅れなのです。

《脳の機能＝心》の治療を行う場所は精神科です。人間らしい気持ち・生活を取り戻す為には、心の回復が必須です。本人や周囲の人たちの早めの気づきと自覚が大切です。



#### おわりに・・・

以上 4 回シリーズでお届けしました「アルコール依存症」について、いかがでしたでしょうか？どの回から読んでも分かりやすく構成してありますので、今後のご参考にして頂けたら幸いです。

『アルコールを断って新たな生活を始める』ことは容易ではありません。しかし、その先には本来の自分を取り戻し、穏やかであたたかな人間関係を再び築くことができます。「おじいちゃん、もとの優しいおじいちゃんに戻ったね。」と喜ぶ孫の顔・・・「普通の夫婦のように、一緒に日帰り温泉に行けるなんて夢のようだわ。」と嬉しそうな妻の顔・・・「風の匂いや草木のそよぎが感じられるようになった。前は酒のことしか頭になかったのにね。」とほほ笑む患者さんの顔・・・。ひとりひとりの誇らしげな顔が、断酒治療の行く手を照らす希望の光となりますように願ってやみません。



ご相談は、こちらで承ります



河渡病院 地域連携室 / 相談室  
(代) 025-274-8211

お電話は、平日 9 時 00 分 ~ 16 時 30 分